

## I-4. リサーチ・アドミニストレーターの質保証に向けた調査・分析

### Research on Quality Assurance of Research Administrator

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <b>キーワード</b><br>Key Word | 研究支援人材、研究支援、産学官連携  |
|                          | Research Administrator, Industry-academia-government collaboration |

#### 1. 調査の目的

国では、平成 23 年より「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業を展開し、各大学において、リサーチ・アドミニストレーター（以下、URA）を配置し増加が図られてきた。他方、URAに求められる役割は、整備事業の開始から6年が経過し、当初の研究プロジェクトの企画立案及び進捗管理などの研究者をサポートする役割のみならず、大学等の経営や戦略策定に寄与する役割など、規模や特色の違いなどにより、URA に対して求める役割に多様性が生じてきている。また、国においては、大学等機関に、民間企業からの投資を拡大させるため、「日本再興戦略2016」（平成28年6月閣議決定）において目標設定が行われ、大学と企業との橋渡しを担う人材（URA 等）への期待は大きくなっている。

本調査では、本格的な産学官連携の推進に資する好事例等収集し、事例集の作成を行うとともに、URAの質保証を図るため、研修カリキュラム、スキル認証のモデルの整理、URA人材のデータベース化及び採用マッチングシステムのモデル等を作成した。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査の構造

本調査は、①外部有識者等からなるリサーチ・アドミニストレーターの質保証に関する調査研究委員会、②好事例、先進的または独自性のある事例等に関する調査、③研修カリキュラム、スキル認証に関する調査及びモデルの作成、④データベース及び採用マッチングシステムに関する調査並びにそれらのモデルの作成で構成される。

②から④の調査項目では、大学の URA 組織を対象としたアンケート調査や、関係機関・関係者等へのヒアリング調査を実施し、URA 組織の現状の把握を行うとともに、先進的な取組み事例の収集と、URA 人材の養成のための研修カリキュラムのあり方、スキル認証に関する意見収集を行った。これらの調査により、URA 組織が抱える課題と、今後の取組みに向けた方策を把握した。

##### (2) URA 組織を対象としたアンケート調査結果

本調査では、URA 組織を対象に、「好事例、先進的または独自性のある事例等に関する調査」、「研修カリキュラム、スキル認証に関する調査及びモデルの作成」、「データベース及び採用マッチングシステムに関する調査並びにそれらのモデルの作成」の各項目についてアンケート調査を実施した。

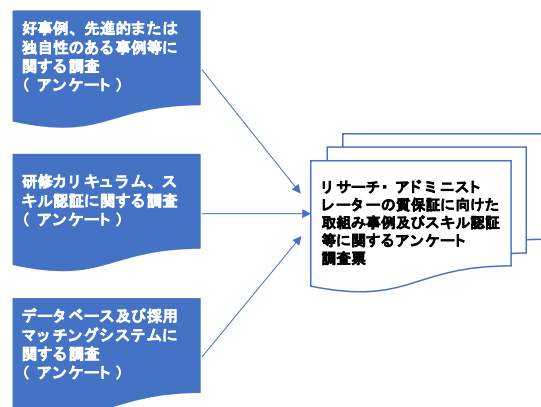


図 1：アンケート調査の概要

《URA 組織の業務範囲》

URA 活動組織は、政策情報等の調査分析、研究力分析、研究 PJ 企画立案、外部資金情報収集等の研究戦略、プレアワードに位置する業務、産学連携支援に主として関与している一方で、機関評価、教育プロジェクトの支援、国際連携支援への関わりは、従としてもしくは必要に応じての関与に留まる。

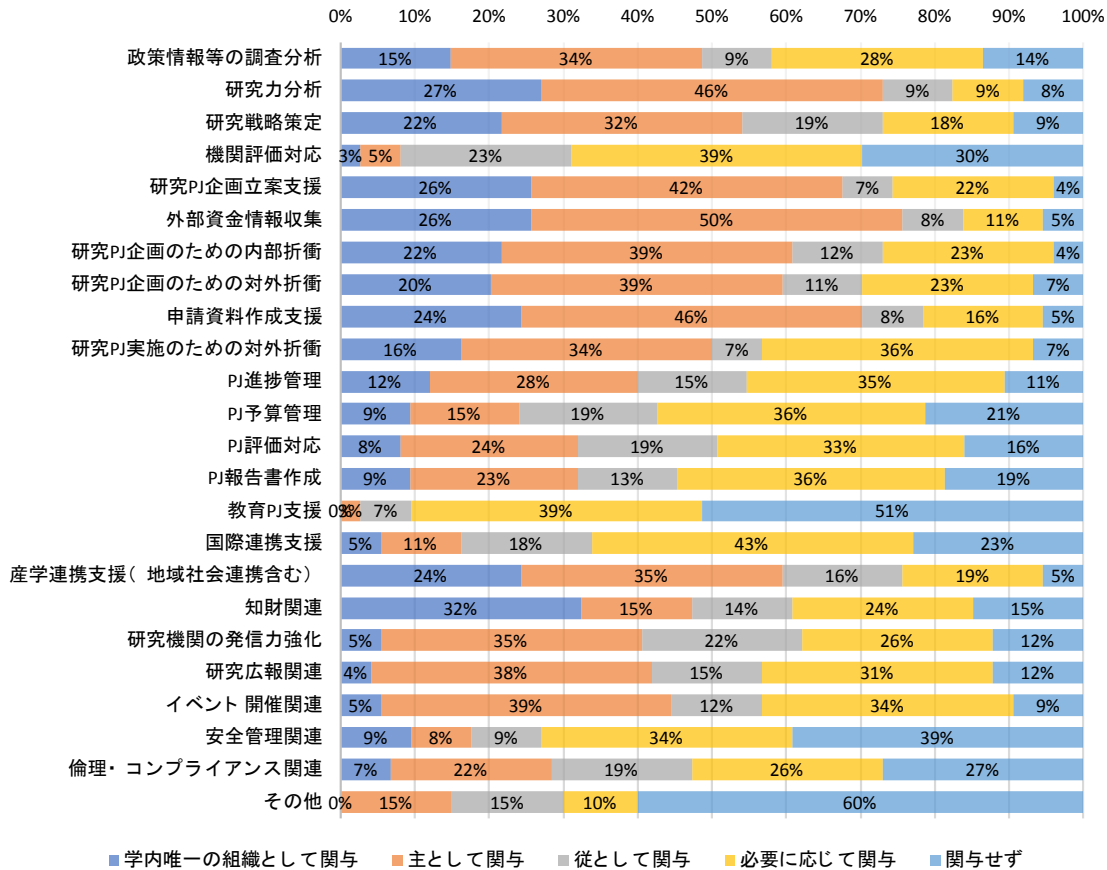


図 2 : URA 組織の業務の範囲

《研修カリキュラム、スキル認証について》

URA 人材の業務達成目標は、URA 組織の半数で設定している。スキル設定の面では、スキル標準を参考に、URA の職階ごとの職務内容の理解とスキルレベルを設定し、組織によっては、採用一育成一昇任審査の参考や業績評価、勤務評価に活用している例が見られた。一方で、URA を対象とした業務評価を行っていない組織も複数見られた。

また、URA 人材の育成では、能力開発計画を策定している URA 組織は 3 割に留まる。能力認証の必要性について、国立大学では、64%が必要と回答するものの、このうち、早期に必要なとする意見が 53%、将来的に必要なとする意見が 47%であった。

《データベース及び採用マッチングシステムについて》

URA 組織が URA を採用する際に利用しているサービスは、主に JREC-IN Portal と機関ホームページ(採用情報)が中心であり、人材紹介会社を介した採用活動はわずかであった。URA の採用にあたり重視する項目は、職歴、現在(直近の業務)、専門分野等であり、URA としてどのようなことができるかを把握するための項目に重きが置かれている。